



貸借向けにアプリ活用 高齢者の健康見守り

来春から提供開始 「おうちで安心」

スマートフォンアプリ「おうちで安心」の画面。高齢者の元いた生活情報を不動産会社と家族が共有する



「おうちで安心」は、大家族が共有する仕組み。登録すると、スマートホンの専用アプリをインストールし、入居者専用アプリに健康状態や家族のスマートホンの健康状態を「けんき」「ふつう」「わるい」の3段階で「わかるい」の3段階で「信される仕組み。未登録の空き物件の有効活用にもつなげていく。

「おうちで安心」は、大家族が共有する仕組み。登録すると、スマートホンの専用アプリをインストールし、入居者専用アプリに健康状態や家族のスマートホンの健康状態を「けんき」「ふつう」「わるい」の3段階で「信される仕組み。未登録の空き物件の有効活用にもつなげていく。

アート不動産

プロフェッショナル・ネットワークス

県立大の小川研究室

共同開発

スマートフォンアプリ「おうちで安心」の画面。高齢者の元いた生活情報を不動産会社と家族が共有する

「おうちで安心」は、大家族が共有する仕組み。登録すると、スマートホンの専用アプリをインストールし、入居者専用アプリに健康状態や家族のスマートホンの健康状態を「けんき」「ふつう」「わるい」の3段階で「信される仕組み。未登録の空き物件の有効活用にもつなげていく。

「おうちで安心」は、大家族が共有する仕組み。登録すると、スマートホンの専用アプリをインストールし、入居者専用アプリに健康状態や家族のスマートホンの健康状態を「けんき」「ふつう」「わるい」の3段階で「信される仕組み。未登録の空き物件の有効活用にもつなげていく。

「おうちで安心」は、大家族が共有する仕組み。登録すると、スマートホンの専用アプリをインストールし、入居者専用アプリに健康状態や家族のスマートホンの健康状態を「けんき」「ふつう」「わるい」の3段階で「信される仕組み。未登録の空き物件の有効活用にもつなげていく。

ズンのピークが終わる来春5月ごろから本格的なサービスを開始する予定だ。

アート不動産が管理している物件は約5000戸。高齢化や核家族化が進んだ影響もあり、例年2、3件は「孤死」の報告がある。発見が遅れば、物件の改装費用が膨らみ、大家の負担も大きい。

こうした事情から、高齢者への賃貸に慎重な大家も多く、住まいを借りたくても借りられない人が増えていた。

櫻井社長は「一人暮らしの高齢者だけでなく、障害者や持病を抱える人にとっても安心なサービス。空き物件を有効に活用することにつながるれば、地域の活性化にもなる」と語る。

小川教授は、同居高齢者の安全確認システム「おけんき発信」をはじめ、宅内センサーによる見守り機能付き買い物支援サービスなど、進めてきた。研究成果が社会で実装されていくことも意義がある取り組みを組み合わせ、高齢者の生活を支えるコト場にある人を受け入れ、支える、共生社会を形づくっていく上で、弱くても強い立ちま」と期待する。